

第 13 号…平成29年7月

協会だより



一般社団法人 関東地域づくり協会

3 定時総会報告

第5回 定時総会

4 理事長あいさつ

5 関東地域づくり協会からのお知らせ

新役員紹介

協会の組織変更について

勤続精励職員表彰

第66回 利根川水系連合・総合水防演習開催

地域づくり研究所活動報告

関東・水と緑のネットワーク

平成29年度公益事業紹介

8 社会資本に関する話題

平成29年度 関東地方整備局 関係予算について

圏央道など高規格道路が続々開通

ハツ場ダム本体工事本格着手

10 プロジェクトK ⑩

品格を備えた公園の玄関口を造る

国営昭和記念公園 みどりの文化ゾーン

14 関東の河岸めぐり ⑭

宗道河岸 茨城県

16 関東の土木遺産 ⑯

神田下水 東京都

18 会員のひろば

before after

19 会員情報

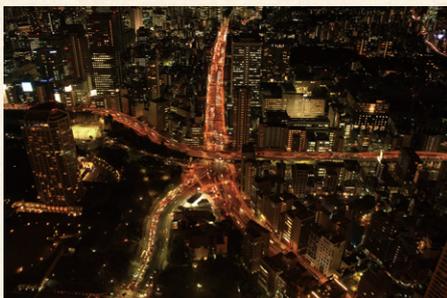
新会員紹介・お悔やみ

編集委員会だより

20 ピックアップ 関東の「道の駅」 ⑰

ここでしか味わえない

特産の食材で地域を盛り上げる! 道の駅「つる」



表紙の言葉

折久木佑奈さん (東京都立工芸高等学校)

星

この写真は当会が主催する第29回「道のある風景写真コンクール」で高等学校の部の金賞に選ばれた東京都立工芸高等学校生の折久木佑奈さんの作品です。「この作品は、東京タワーの展望台から撮影したものです。高いところだからこそ見える角度から、普段私たちが歩いている道を写真に収めたいと思い、この道を見つけました」。都市の夜が作り出す情景を星の形に見たてて撮っているのが面白いと評価されました。

第5回 定時総会



平成 29 年 6 月 16 日（金）、大手町サンケイプラザ（東京都千代田区大手町）において、平成 29 年度第 5 回定時総会が開催されました。総会には会員 1,320 名中 1,111 名（出席者 404 名、委任状提出者 707 名）が出席されました。

総会では、奥野理事長によるあいさつの後、議事である第 1 号議案の平成 28 年度事業報告及び決算、会計監査報告が行われ、続いて第 2 号議案の役員選任に関する件が提案され、それぞれ承認されました。その後、平成 29 年度事業計画及び予算について報告されました。

総会終了後、東京都健康長寿医療センター研究所研究副部長の青柳幸利氏により「1 日 8,000 歩・速歩き 20 分で長寿遺伝子のスイッチ ON！」と題して講演が行われました。

講演では群馬県中之条町において行われた日常的な身体活動と心身の健康に関する研究をもとに、健康長寿 10 か条や日常身体活動（歩数と速歩き）と予防できる病気の健康効果の関係などパワーポイントによる図表を

用いて、出席した会員に分かりやすく説明がされ、それぞれの健康管理や日常生活について、非常に参考になりました。



青柳幸利氏による講演

理事長あいさつ

奥野晴彦

皆様、こんにちは。本日はご多忙中のところ、一般社団法人関東地域づくり協会第5回定時総会にご出席いただき、ありがとうございます。開会に先立ち、一言ごあいさつ申し上げます。

例年のことで恐縮ですが、今回も災害の話から始めさせていただきます。昨年の総会では、4月の熊本地震に触れさせていただきましたが、その後も6月梅雨による豪雨、土砂災害、8月には、北海道、東北で台風による豪雨に伴う大きな災害が発生しました。

これらの台風がこれまで経験のないコースをたどり、日本列島を襲ったことは大きな驚きでしたが、日本近海の海水温上昇の影響が大きいとみられています。間違いなく温暖化は進んでいるようで、これがCO₂等の温暖化ガスによるものかどうかについてはいろいろ意見があるようですが、最近温暖化ガスの排出を抑制するパリ協定から、米国が撤退の意向を示したことは、残念なことといわねばなりません。

また、10月には、鳥取でも大きな地震がありました。

国際的な政治、経済の面でも、昨年从今年にかけて、大きな動きが相次いでいます。米国、韓国、フランスの大統領選挙、英国の総選挙など、我が国とも関連の深い国々で選挙が行われました。外国のこととはいえ、我が国の政治、経済に大きな関連があるところから、また、株価の変動もあり、多くの人が関心を持ってみておられたのではないのでしょうか。経済のグローバル化が進展する中、世界のどこかで起こったことが、我が国に大きな影響を及ぼすようになったことを痛感させられます。

さらに、我が国周辺の安全を巡っても、さまざまな出来事があります。特に、北朝鮮では、相次いでミサイル発射実験が行われ、射程が長くなるとともに精度も向上

しているという報道もあります。

自然災害にしても、国際的な政治経済の面にしても、我が国を取り巻く安全の問題にしても、何が起るか分からない、何が起っても不思議ではない、という不安な時代、世界になってきたような気がいたします。

一方、このような時代であるからこそ、何があってもびくともしない強い国土、たくましい経済社会を築く必要性がますます高まっていると思います。このことに果たすインフラの役割は、きわめて大きいと思います。関東地域の根幹的なインフラの整備、管理を担う整備局の役割はますます重要になってきます。

当協会は設立以来50年にわたり、整備局の業務遂行を支援し、関東のより良い地域づくりに貢献してまいりました。この使命は今後も変わることはないと確信しており、またそのことを地域の多くの皆さんから期待されているものと思います。

さて、当協会の活動ですが、平成25年以来進めてきました発注者支援業務等からの撤退、関東建設マネジメント（株）への事業譲渡、承継は昨年10月をもって完了いたしました。それに伴い、多くの職員が退職し、現在では、約80名の組織となっております。この7月には、管理部門の職員の異動を予定しており、今年後半は、とりえず五十数名の所帯となります。少数精鋭となりますが、今後必要な人材を確保しつつ、より一層密度の濃い活動を行ってまいります。

今後の活動のスタートとして、協会としてその使命を果たすための会のあり方、事業の展開方向をしっかりと固める必要があります。その上で、会の有する資源、資産を精査し、これを最大限有効に活用する方策を考える必要があります。このことは、平成25年一般社団法人に移行するに際し、公益目的支出計画に記載した



ことでもあります。

これらの検討は、拙速に行うものではなく、しっかりと議論し、まとめる必要がありますが、現時点では、以下のような活動を行っていく必要があると考えています。

まず、防災事業や地域活性化事業をはじめとする公益目的の事業をしっかりと遂行すること、このことが最も大事なことで考えています。防災事業に関しては、近年頻発する豪雨災害に対処するため、この国会で、水防法等の一部を改正する法律が成立しました。さらに、市町村における災害復旧事業等の対応を確実なものとするため、国土交通省に設置された「防災に関する市町村支援方策に関する有識者懇談会」から最近提言がありました。そこでは、テックフォースの充実強化、都道府県等による市町村支援強化等と合わせ、災害復旧事業について、民間事業者がパッケージで支援できる仕組みの整備が必要であるとされています。当協会においても東日本大震災に際し支援を行った実績がありますが、今後とも、直轄災害の支援の他、人材、資源の不足している市町村の支援を行うことも重要と考えています。

このほか、インフラの整備・管理の効率化のためのマネジメント、インフラの品質の確保、メンテナンスサイクルの構築、人材育成の事業などに取り組んでいく必要があると考えています。これらの事業の一部は、既に手がけているものもありますが、今後新たに取り組むべきものも多くあるかと思っています。会員の皆様には、引き続き強力なご指導、ご鞭撻をお願いします。

本日は、昨年度の事業報告、決算及び役員改選を中心に議題を設定しております。皆様の活発な審議をお願いします。

終わりに、皆様の一層のご発展とご健勝を祈念しまして、冒頭のごあいさついたします。

新役員紹介

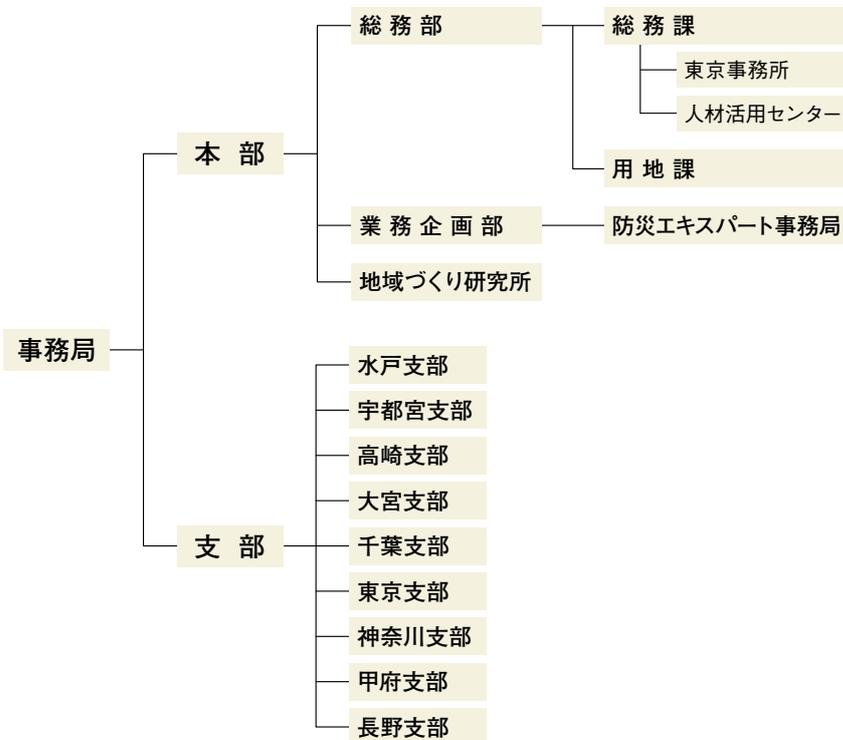
下記の方が新役員に就任しました。
どうぞよろしくお願いたします。



理事 わたなべ たけお
渡邊 猛雄

協会の組織変更について

関東地域づくり協会は、平成29年7月1日から以下のとおり、組織を変更いたしました。今後とも引き続き、よろしくお願いたします。



勤続精励職員表彰

関東地域づくり協会表彰規程に基づいた勤続精励表彰式が、6月20日（火）、東京事務所にて執り行われました。平成29年度は6名の方々が対象となりました。理事長はじめ役員立ち会いの下、表彰状と副賞が手渡され、受賞者の皆さんは緊張した面持ちで受け取りました。理事長からは、これまでの働きへの感謝と今後への期待の言葉が送られました。

なお、和田智志氏は業務の都合で表彰式には出席できませんでした。

前列左から	坂入 信行	企画部
	塚本 仁	企画部
	奥野 晴彦	理事長
	潮田 利道	千葉支部
	前田 誠	技術部
	斉藤 和久	企画部
枠内	和田 智志	技術部
後列左から	渡邊 猛雄	理事
	後藤 敏行	専務理事



第66回 利根川水系連合・総合水防演習 開催

埼玉県加須市新地通先地にて

5月20日(土)、国土交通省と利根川水系に属する各県市の主催で、利根川水系連合・総合水防演習が行われました。利根川の堤防を決壊させ、埼玉県と東京都に甚大な被害を与えたカスリーン台風から70年。近年被害の大きい台風時の出水に備え、水防訓練や救出・救護訓練など一連の訓練を実践的に行いました。



関東地域づくり協会では、防災エキスパートによるロープワークの体験指導や防災に関するパネル展示を行いました。

地域づくり研究所 活動報告

地域づくり研究所では地域の人々に向けて、社会資本に関する啓発活動や防災ネットワークの構築支援、地域創生支援などの活動を行っています。

2月22日(水)には三郷市校長研修会にて、当研究所客員研究員の宮尾博一氏が講師を務め、江戸川などの水害について解説しました。参加者は三郷市の小・中学校長約30名。児童・生徒向けの講習企画と校長自身の事前学習のために開催されたもので、今後の小・中学生の地域学習に貢献しました。



関東・水と緑のネットワーク

関東地域づくり協会では、公益財団法人日本生態系協会とともに、関東地域の身近な風景や自然、人とのかかわり・つながりを創出する拠点を、ネットワーク拠点百選として選定し活動を支援してきました。これまでに選ばれたのは合計102の拠点。今後は拠点間の連携を進めることで、より一層、人々が自然に親しみ、自然とともに歩むことが

できる地域づくりを目指します。

3月20日(月・祝)には千葉大学園芸学部百周年記念戸定が丘ホールにて「関東・水と緑のネットワーク交流会」を開催。三島次郎氏(桜美林大学名誉教授)の講話のほか、新規団体紹介、活動報告とともに、近隣の「松戸市戸定地区の森」の現地見学などが行われました。

新規選定団体 (5団体)

選定団体名	選定対象地	面積	所在地
根木内歴史公園サポーター(根っ子の会)	根木内歴史公園	約2.5ha	千葉県松戸市
緑のネットワーク・まつど	松戸市の緑地ネットワーク	約17.4ha	千葉県松戸市
上矢部まちづくりの会	水・人・緑AQUAさんぽ道	約0.3ha	神奈川県横浜市
奥日光水の会	奥日光の水を守る	約1.5ha	栃木県日光市
下田の杜里山協議会	下田の杜	約5.4ha	千葉県柏市

これまでの選定状況

回(年度)	選定団体数
1(平成21)	24
2(平成22)	11
3(平成23)	16
4(平成24)	11
5(平成25)	8
6(平成26)	13
7(平成27)	14
8(平成28)	5
合計	102



「松戸市戸定地区の森」現地見学



関東・水と緑のネットワーク交流会

平成29年度 公益事業紹介

3月9日(木)公益助成事業審査会(外部委員2名含む)において、平成29年度の公益助成事業が全103件審議され、80件が採択されました。

地域活性化 全22件

人口減少、少子高齢化が進む社会の中で衰退している地域社会において、環境保全や観光、文化、歴史、自然等の地域資源を活用する事業への支援を通じて、地域づくり、地域活性化に寄与することを目的とする事業。

事業名

- 棚田再生を活用した持続的環境保全及び地域活性化
- 青山通(国道246号)沿道の緑化プランの検討
- 利根川舟運による地域活性化事業
ほか



調査研究・技術開発 全5件

大学・団体・企業等を対象に技術開発・研究費用の一部を支援するとともに、社会資本の記録・整理・整備に関する研究活動への支援を行うなど、広く社会資本の整備の推進に寄与することを目的とする事業。

事業名

- 外濠再生に資する調査研究
- 「道の駅」防災拠点のあり方検討
ほか



防災 全17件

災害時の防災エキスパートおよび当会職員等による災害支援活動および平常時の防災のための公共施設点検、防災意識の向上、啓発等の広報活動支援を通じて、災害時の迅速かつ確な対応に寄与することを目的とする事業。

事業名

- 防災エキスパート活動支援事業
- 市民防災まちづくり塾
- 防災教育・砂防校外授業
ほか



講演会等 全8件

河川や道路等の社会資本の整備が、防災、治水、利水、物流、観光等地域社会や経済等に果たしている役割等について、講演会やセミナーの開催、優良な工事に対する表彰等を通じ、広く理解を深められることを目的とした事業。

事業名

- 地域づくり講演会
- 渡良瀬遊水地の貴重植物保全講習会
- 建設技術展示館での技術力UP講習会
ほか



環境保全 全18件

関東地域内に残る自然環境の調査、保護、再生に取り組む活動への支援、河川や道路等の社会資本を清掃・美化する活動への支援、地域の自然に興味を促すことで環境愛護の精神を育む活動への支援を通じ、地域に貢献することを目的とする事業。

事業名

- 貴重植物保全のための野焼き事業
- 「関東・水と緑のネットワーク拠点百選」選定団体支援
- 道路愛護活動のためのボランティアサポートプログラム
ほか



広報 全10件

河川や道路等の社会資本の役割や重要性などについて、新聞・映像・テレビ・HP等で広く報じることにより、地域住民等の社会資本への理解が深められることを目的とした事業。

事業名

- 道のある風景写真コンクール
- やんばウォーク
- 建設フェスタ2017による社会資本整備の重要性PR
ほか



平成29年度 関東地方整備局 関係予算について—直轄事業は2%増の5,626億円

3月31日、関東地方整備局から平成29年度予算の事業概要が公表されました。総事業費は1兆8,970億円(対前年度0.98倍)であり、内訳は、直轄事業費が5,626億円(対前年度比2%増)、

補助事業費が1兆3,344億円(交付金を含む。対前年度比3.6%減)です。

予算配分額の詳細と主要な事業の概要は以下のとおりです。

■総括表(直轄事業+補助事業)

(単位:百万円)

区分	平成29年度			平成28年度	倍率
	直轄	補助	合計		
治水	121,344	2,269	123,613	112,836	1.10
海岸	3,106		3,106	2,646	1.17
道路	311,098	28,108	339,206	339,970	1.00
港湾	66,271	11,886	78,157	80,011	0.98
空港	40,763		40,763	35,448	1.15
住宅対策		83,848	83,848	107,895	0.78
市街地整備		108,647	108,647	124,979	0.87
都市水環境整備	8,463		8,463	8,115	1.04
下水道		426	426	400	1.07
国営公園等	4,848		4,848	5,093	0.95
社会資本総合整備		1,099,196	1,099,196	1,100,983	1.00
一般公共事業計	555,893	1,334,380	1,890,273	1,918,375	0.99
官庁営繕	6,739		6,739	18,658	0.36
合計	562,632	1,334,380	1,897,012	1,937,033	0.98

※空港の金額は、東京国際空港配分額のうち、関東地方整備局の執行分。
 ※社会資本総合整備は、「社会資本整備総合交付金」と「防災・安全交付金」がある。
 ※計数はそれぞれ四捨五入しているため、端数において合計とは一致しない場合がある。

■主要事業の概要

事業の名称	事業の概要	平成29年度予定
鬼怒川緊急対策プロジェクト (河川激甚災害対策特別緊急事業)	平成27年9月の関東・東北豪雨災害を踏まえ、国、茨城県、鬼怒川沿川の7市町は、被害の大きかった鬼怒川下流域(茨城県区間)において治水対策「鬼怒川緊急対策プロジェクト」を実施している。国においては、平成32年までに決壊した堤防などの復旧、高さや幅が足りない堤防のかさ上げや拡幅などの堤防整備、洪水時の水位を下げるための河道掘削などを緊急的・集中的に実施し、治水安全度の向上を図る	溢水箇所等において引き続き用地取得・補償等を実施するとともに、堤防整備等を実施する。茨城県八千代町今里地区等において、河道掘削を実施する [平成29年度事業費:約71.4億円]
ハッ場ダム建設事業	首都圏を支える利根川水系において、洪水被害の軽減や安定的な水資源の確保等に寄与する	生活再建事業として、付替道路工事、用地補償、代替地整備等を実施する。平成28年度よりコンクリート打設を開始したダム本体工事を継続して実施する [平成29年度事業費:約334.6億円]
浅間山 火山砂防事業	中規模噴火発生の恐れがあるため、砂防設備等の整備により、積雪期の火砕流による融雪型火山泥流や、噴火後の土石流等による家屋・国道等の被害の防止を図る	群馬県吾妻郡嬭恋村において片蓋川砂防堰堤群等の整備を実施する。長野県小諸市等において蛇堀川砂防堰堤群等の整備を実施する [平成29年度事業費:約14.1億円]
首都圏中央連絡自動車道	首都圏の幹線道路の骨格となる3環状9放射の道路ネットワークを形成し、都心から半径およそ40~60kmの位置に計画された総延長約300kmの環状の高規格幹線道路。平成29年2月26日に茨城県区間が全線開通し、約9割がつながった	未開通区間の整備によるネットワーク効果の早期実現に向け、調査設計、用地買収、改良・橋梁トンネル工事を実施する [平成29年度事業費:約425.3億円]
東京外かく環状道路 (関越~東名)	東京の中心から半径約15km地域を結ぶ延長約85kmの環状道路。関越道から東名高速までの約16kmの区間	早期開通に向け、道路設計、埋蔵文化財調査、用地買収、区分地上権設定、ランプ橋下部工、ランプトンネル工、地中拡幅トンネル工、本線トンネル工、改良工、環境整備工を実施する [平成29年度事業費:約530.0億円]
(千葉県区間)	千葉県松戸市~市川市の延長12.1kmの区間	平成29年度の開通に向け、道路設計、移設補償、用地買収、改良・舗装工事等を実施する [平成29年度事業費:約241.9億円]
中部横断自動車道	上信越自動車道・中央自動車道・東名高速道路を結ぶ広域高速ネットワークを形成し、物流の効率化や緊急医療活動の支援、災害時の代替道路の確保等を目的とする、延長約132kmの高速自動車国道	富沢IC~南部IC間および下部温泉早川IC~六郷IC間は平成30年度、南部IC~下部温泉早川IC間は平成31年度の開通に向け、改良・橋梁トンネル工事を実施する。八千穂IC~佐久南IC間については平成29年度の開通に向け、改良・橋梁・舗装工事を実施する [平成29年度事業費:約424.8億円]

圏央道など高規格道路が続々開通

2月26日(日)に境古河IC~つくば中央IC間が開通し、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)茨城県区間が全線開通しました。これで圏央道は総延長300kmのうち、9割に当たる270kmが開通したことになります。成田空港から関東各地の観光地へのアクセスの向上と、圏央道沿線の大型物流施設約1,600件における生産性のさらなる向上が見込まれています。

見込まれています。

また、この圏央道茨城県区間の開通に合わせて、高速道路にナンバリング標識が設置されることになりました(圏央道は「C4」)。従来の路線名に合わせて路線番号を指定するものであり、訪日外国人なども含めすべての人に分かりやすい道案内の実現につながります。

地域高規格道路である東京外かく環状道路、高規格幹線道路である中部横断自動車道などの整備も進められており、首都圏の高規格道路ネットワークはますますその効果が期待されています。



インフラツーリズム●
圏央道開通直前見学ツアー

2月12日(日)、圏央道開通直前見学ツアーが行われました。参加者は382名。当協会からも、4名がガイドとして同行しました。

ハッ場ダム本体工事本格着手

ハッ場ダムは吾妻川中流に位置し、洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道および工業用水の確保、発電などを目的とする多目的ダムとして計画されています。

3月4日(土)、定礎式が行われました。現在は、平成31年度の完成を目指して夜間もダム本体のコンクリートの打設が進められています。

ハッ場ダム建設がようやく本体工事の着工にこぎつけ、

[工事進捗状況: コンクリート打設高約2割(平成29年6月末時点)]



天端から左岸側を望む



正面(下流から上流を望む)

写真提供: 国土交通省関東地方整備局
ハッ場ダム工事事務所

品格を備えた 公園の玄関口を造る

国営昭和記念公園 みどりの文化ゾーン



みどり橋

会員の方々に携わったプロジェクトの地を再訪していただき、苦勞や喜び、エピソードさらには事業全体の効果などを語っていただく本シリーズ。第31回は、国営昭和記念公園みどりの文化ゾーンの整備に携わった山野辺信治さん、小林弘幸さんと現場を訪ねました。



山野辺信治さん

昭和44(1969)年東北地方建設局入省、平成18(2006)年、国営昭和記念公園事務所工務課長を務めたのち退職。

小林弘幸さん

昭和39(1964)年入省、平成14(2002)年、国営昭和記念公園事務所工務課長を務めたのち退職。

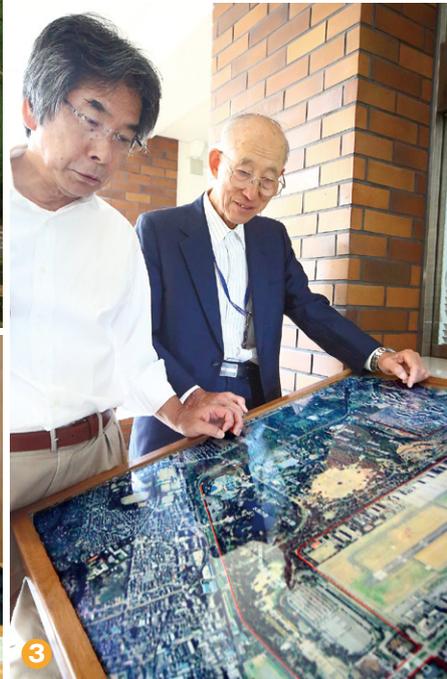




③ 公園事務所エントランスにある上空写真。豊かな自然に包まれた公園だ

① みどりの文化ゾーン施工中の様子。小林さんが在籍した平成13年は、中央の広場には工事で使用する土が積まれていた。「その空き地で職員が昼休みにキャッチボールしていたのを覚えています」(小林さん)

② 「思い入れのある事業なものですから」と、山野辺さんは多くの資料を保存している



道路づくりとは異なる 総合芸術としての公園づくり

昭和天皇陛下御在位五十年記念事業の一環として造成された国営昭和記念公園。昭和52(1977)年11月30日に米軍より返還された立川基地跡の広大な敷地を利用しており、計画面積は180haに及ぶ。「緑の回復と人間性の向上」のテーマにふさわしく、武蔵野の豊かな自然が体感できる、我が国を代表する公園だ。昭和56年11月に都市計画決定された同公園は昭和58年10月26日、昭和天皇御臨席の下で第1期の70haが開園。その後も順次整備され、続々と施設をオープンしてきた。

この昭和記念公園の管理を行ってきた昭和記念公園事務所に平成13(2001)年4月、工務課長として赴任した小林弘幸さんは当時を振り返る。

「私はそれまで道路に関する仕事ばかり担当していたため、公園の管理に携わることになり不安もありました。子供を連れて遊びにくる場所だという認識しかありませんでしたが、仕事として関わってみると非常に新鮮で、公園の素晴らしさを発見したように思います」

工務課としては、年度予算に基づき工事の積算や発注を行うのが主な仕事。当時は、公園内の維持管理、古くなった施設や設備の取り換えなどを行っていた。

「私が驚いたのは除草の仕方です。道路の除草ならば一気に刈ってしまいますが、公園内では生態系を維持するために少しずつ刈る。共生のためにはそういった配慮が必要なのだと感じました」(小林さん)

小林さんの着任直後、公園北側の砂川口がオープン。立川基地の返還への流れは、基地拡張に反対した砂川町民による闘争から起こったことでもあり、砂川口の開門は地元住民からも長く要望されていたことだったという。

小林さんの後、平成14年4月から平成18年4月まで工務課長を務めたのは山野辺信治さんである。

JR立川駅に近い最後の未整備区域である「みどりの文化ゾーン」によいよ着手することになったのがちょうどこの時期だ。事業計画が決定すれば、発注や現場の管理が工務課の中心業務になる。東北地方建設局にいた頃から、建築や造園、都市デザインなどに興味を持っていた山野辺さんにとって、みどりの文化ゾーンの整備は実にやりがいのある仕事だった。



4

- ④ 隣の展示施設ゾーンへとつながるみどり橋。噴水へとまっすぐ延びる開けた視界が、開放感と格調を感じさせる
- ⑤ 都道から見上げるとみどり橋の構造がよく分かる
- ⑥ みどり橋施工中の様子。太いケーブルを両脇から引っ張っている



5



6



7

- ⑦ ⑧ 昭和天皇記念館を併設する花みどり文化センターは、伊東豊雄氏の設計。複雑なパーツを組み合わせて造られているが、拡張性も高く、ユニットを増やして増設できる仕組みだ

「文化を発信する建造物、橋梁や広場、さまざまな要素があり、ましてや昭和天皇を記念する公園なのですから、それにふさわしい品格も考慮しなければなりません。建築・土木・造園のコラボレーションともいえる総合芸術のような事業であり、当時の第一線の建築家やデザイナー、難しい設計にも対応できる施工会社を結集して行った面白い仕事でした」(山野辺さん)

最先端の技術を結集したみどりの文化ゾーン

バトンタッチする形で小林さんから業務を引き継いだ山野辺さんだが、お二人が共に関わったのはみどりの文化ゾーンと、都道を挟んで隣接する展示施設ゾーンをつなぐ、約70mの「みどり橋」。エリア全体の整備に先駆けて始まっていたこの連絡橋の、小林さんは下部工、山野辺さんは上部工の発注と工事全体を担当した。

「設計は調査設計課であらかたできていたのですが、制限の多い場所であり、構造を決めるために苦労していました」と小林さんは説明する。

橋の下を通る都道153号の建築限界は当然確保しなければならないものの、この道路は首都圏中心部が震災被害を受けた際に中核拠点となる立川広域防災基地に通じているため、桁下はあまり低くできない。資材を運ぶ大型車両が通行することも想定されるからだ。一方で上部は、隣接する自衛隊立川駐屯地から航空機が飛び立つための航空制限

があり、あまり高い位置まで構造物があつては困る。つまり、橋梁自体をかなりスリムな構造にしなければならなかった。

それでいて品格もおしゃれさも必要と要求は高く、結果、選ばれた構造はポストテンションPC単純吊桁橋。橋の両端にグランドアンカーを打ち込み、ぴんと張ったケーブルで橋梁全体を吊り上げるという、これまでに例のない構造だ。これにより橋桁は高さ1mほどに収まり、すっきりとした姿に仕上がった(10頁写真)。

平成13年に下部工に着工し、上部工まで完成したのは平成17年7月。立川駅方面から公園に入り、みどり橋から隣の展示施設ゾーンを眺めると、真っすぐ延びた道の先に優美な噴水が飛沫を上げている。青い空に、緑と水のきらめきが映え、これが求められた品格かと納得の景色である。

続いて、平成17年に本格的に整備が始まったみどりの文化ゾーンは12.7ha(うち第1期として8.6ha)。その基本コンセプトは「都市における緑の文化の創造と発信」であり、昭和記念公園全体のゲートになるエリア。情報発信・研究開発の拠点となる「花みどり文化センター」、交流と体験の場となる「ゆめひろば」「そよぎの丘」などが整備されたこのエリアは、無料で利用でき、平日にも多くの人が散歩を楽しんでいる。

「みどりの文化ゾーンの整備に当たっては、さまざまな形で環境に配慮しました。他の公共事業や宅地開発などで発生した建設残土を利用して起伏をつくり、園内で既に育っている樹木を移植。雨水を貯めて植物灌水などに利用できるように雨水貯留槽を設置し、資源の有効利用を図っ



⑨ センター内部の通路は珪藻土(けいそうど)仕上げ。まるで土の上を歩いているような感触

⑩ センター屋上は特殊緑化

⑪ 「駒井悟さんときさらさんはそれぞれ竹中工務店と金箱構造設計事務所の技術者として施工に携わり、平成18年6月、みどりの文化ゾーンオープン後に、ここで結婚式を挙げました」山野辺さんも式に参列した

⑫ みどりの文化ゾーン施工に合わせて、公園奥の日本庭園近くに盆栽苑を開設。当時から盆栽の管理を手掛ける鈴木英男さんの解説に聞き入る



ています」(山野辺さん)

中でも山野辺さんの説明に最も力が入る花みどり文化センターは、せんだいメディアテークを手掛けた伊東豊雄氏の設計である。コンセプトは「公園風景に溶け込む建築(パーキテクチャー)」「公園の成熟とともに歩む建築(成長する建築)」「緑の文化を蓄積・発信する建築(緑の文化アーカイブ)」の3点。内部はさまざまな大きさの筒状の柱(シリンダー)が屋根を支える構造で、壁で区切られた建築とは一味違う、開放的でフレキシブルな空間が特徴的だ。将来、利用状況に応じてユニットごとに拡張できるようにもなっている。

「施工に当たっては設計図に細かく指定された座標に基づき、特殊なパーツを組み合わせています。この難しい設計を実現するため、高い技術を持った施工会社を選びました。現場代理人が集まって設計上の問題点を解決する会議は毎週行い、工事をスムーズに進めていきました。1時間半ほどの会議でしたが、毎回、内容の濃い議論が交わされていたのを思い出します」と山野辺さんは振り返る。

工事は、施工会社だけでなく、関東地方整備局の多くの建築技術者たちの協力の下に完成した。

「調整は大変でしたが、最新技術を駆使した施工技術を目にすることは素晴らしい経験でした」(山野辺さん)

健康促進にも寄与する 人々に愛される公園として続いていく

昭和記念公園では、平成28(2016)年11月の5日間に来園

した高齢者(65歳以上)を対象に歩数計を用いた歩行量調査を行った。対象者(459名)の平均的な滞在時間(約3時間)中の歩行量は、男性で約6,600歩、女性で約6,100歩。この運動量を一定の仮定条件の下で高齢者医療費抑制効果に換算したところ、「年間で約2億円の効果がある」との試算結果が出たという。

昭和記念公園には、年間400万人以上が訪れ、平成28年5月には開園以来の入園者が8,000万人を超えた。開園以来、立川市近隣には大勢の人が居住するようになり、駅前を中心に現在も開発が進んでいる。

自宅からも近く、最後の勤務地だったこともあり、「今でも、妻や近所の人を誘って、季節の花々を楽しみに訪れています」と小林さん。

山野辺さんは「さまざまな技術が投入されたこれほどの規模の公園を、新たに造ることは難しいでしょう。昭和記念公園は市民に愛される緑の財産、国民の財産と言っても過言ではありません。訪れる皆さんには、ぜひ一度、花みどり文化センターの屋上から、エリア全体、特に夢ひろばを眺めてほしい。気持ちのよい風を感じられるそこに立てば、造った当時のコンセプトがきっと伝わると思います」と話す。

山野辺さんが携わったみどりの文化ゾーンの整備は第1期であり、情報発信や人々のより活発な利用を促進するため、将来的には第2期の整備が予定されている。広大な敷地は人々の憩いの場として、健康促進の場として、愛され続けていくに違いない。

鬼怒川の舟運を担った 宗道河岸



かつて関東地方は河川水運の発達した地域でした。その証として各地に残るのが河岸跡です。
それらの河岸の歴史と現在を訪ねるシリーズ。
第10回は茨城県下妻市にあった宗道河岸です。

上、中、下と3つの河岸を擁していた

北関東をゆったり流れる鬼怒川は、ときに氾濫することもあります。流域の人々の暮らしや産業を支えてきた重要な河川です。その鬼怒川で江戸から明治、大正時代にかけて盛んだったのが舟運でした。米などの農産物や材木、薪炭、清酒などが鬼怒川、利根川、江戸川、小名木川のルートで江戸・東京に運び出され、反対に塩や石油、肥料などが運ばれてきました。それらの物資をさばくために鬼怒川両岸には河岸が多く整備されましたが、その中でも規模が大きく大量の物資を扱っていたのが、下妻市宗道にあった宗道^{そうどう}河岸でした。宗道河岸には上、中、下と3つの河岸があり、大変に繁栄していたのです。

この地に河岸が整備されたのには理由があります。鬼怒川がここで東に大きく湾曲していたからです。そのため流れが

ゆったりとしており、船への積み下ろしが容易でした。宗道河岸はいつ頃できたのか。正確には不明ですが、江戸時代初期の寛永期には上河岸は開設していたといわれています。以後、中河岸、下河岸と発展を続け、大正時代まで地域の物流を担ってきました。

河岸の繁栄により、地域には人が多く集まるようになりました。そこで明治時代になってから本宗道村には郡役所、宗道駐在所、宗道税務署などの公共施設が置かれています。第六十二銀行(後の常陽銀行)など金融機関の支店も開設されるなど繁栄を極めました。

鉄道と河川改修が宗道河岸の運命を決める

様子が変わるのが、大正時代に入ってからです。大正2(1913)年、常総鉄道の取手—下館間が開通しました。現在の関東鉄道常総線です。宗道地区にも宗道駅が開設され、



左:近代の宗道河岸
右:大宗橋と宗道河岸付近。川は埋め立てられ橋は県道となった。脇の大ケヤキも今はない
(共に下妻市教育委員会提供)



かつての宗道河岸を復元したジオラマ
(下妻市ふるさと博物館蔵)

下河岸の河岸問屋を務めた浅野家の墓地



下河岸近くにあった宗道神社

中河岸に近い宗任(むねとう)神社に残る宗道船連が建立した水神様の石碑



宗道神社内にある宗道河岸説明板

次第に物資流通の拠点となっていきます。宗道河岸をはじめ鬼怒川の諸河岸の衰退は急激に進みました。

とどめを刺したのが、大正15(1926)年、内務省により計画された宗道地区の鬼怒川湾曲部分改修計画でした。川の湾曲は、普段はよいのですが、洪水のときは流れを阻害し水流が堤防に強く当たるなど危険だったからです。約10年の工事を経て鬼怒川は現在の流れになりました。しかし新しい河道は流れが早く河岸には適しません。宗道河岸は役割を果たし復活することはありませんでした。

現在、宗道神社の脇を流れていた鬼怒川湾曲部(旧河道)や河岸跡は住宅や水田になっており、実際の景色から昔の面影をしのぶことはほとんどできません。かろうじて古い堤防を利用したと思われる道路や旧河道に建てられた住宅を吹き抜ける鬼怒川からの風だけが、その昔の宗道河岸の繁栄を想像させてくれます。



都市基盤として暮らしを支え約130年 我が国初の近代下水道

JR神田駅の改札から絶え間なく吐き出されるサラリーマンの群れ、西口駅前から北北西に延びる多町大通りにも人や車の往来が絶えません。しかし、この繁華街の地下に希少な土木遺産、神田下水があることを知る人は少ないでしょう。

神田下水が施工されたのは、今から約130年前の明治17(1884)～18年。現在の千代田区内神田、鍛冶町、多町2丁目を中心としたエリアで煉瓦積み管約0.9km、陶管約3.1km、合わせて約4kmが整備されました。関東大震災や戦災をくぐり抜け、交通事情の激変にも耐えて、煉瓦積み管の一部が今なお現役で稼働し、都市生活者の暮らしを支えています。

平成6(1994)年に神田下水の一部(614m)が東京都の文化財(指定史跡)となり、平成25(2013)年には土木学会選奨土木遺産に認定されました。

その認定理由について、選奨土木遺産選考委員で、豊島区役所都市整備部の寫田真一氏は次のように語ります。

「我が国初の近代下水道でありながら、いまだに現役であ

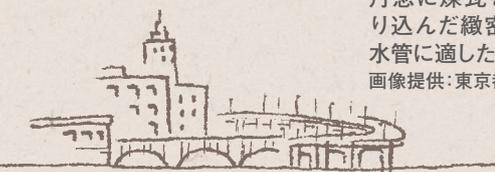
る同施設は、土木遺産としての価値が認められます。下水道は、衛生的に都市生活を行う上で欠かせない都市基盤ですが、目に見えないため、なかなか市民にPRしにくい面があります。神田下水の認定により、土木遺産の文化的価値の評価や社会への理解が深まることを期待しています」

伝染病予防への衛生行政の気運が高まり 明治政府主導で始まった下水道整備

17世紀頃の江戸では、すでに下水の整備・管理が行われていました。下水に流されるのは雨水と雑排水のみで、河川や堀を經由して海に放流。尿尿は別に集積して近郊の農家に肥料として売る仕組みができていたので、河川の汚染はさほど問題になりませんでした。

しかし、江戸末期に外来伝染病が侵入。明治10年代になるとコレラの爆発的な流行が繰り返され、明治15(1882)年には全国で約3万4,000人、東京府下で約5,000人、東京市域に当たる15区内で約4,500人の死者が出る大惨事となります。「当時の下水は江戸期以来の掘割開渠で、汚水は河川や堀にそのまま放流されていた上、上水も掘井戸か木管の上水道だった。上水と下水が相互に浸透して上水

丹念に煉瓦を積み、目地を塗り込んだ緻密な仕事ぶり。下水管に適した卵形管の機能美
画像提供：東京都下水道局



関東の土木遺産 第31回

今も現役、我が国初の近代下水道

神田下水 東京都

土木学会では現存する貴重な土木構造物を調査し、「日本の近代土木遺産」として発表しています。それらの土木遺産の中でも特に価値あるとされるのが選奨土木遺産。第31回は東京都千代田区にある神田下水です。



選奨土木遺産のプレート



を汚染し、病原菌が伝播した」と『下水道東京100年史』に記載されており、これが原因でした。

明治16(1883)年、政府は東京府に「水道溝渠等改良ノ儀」を示達し、上下水道の改良を促しました。そして翌年、17年度に補助金5万円を交付、18年度以降は地方税で事業を継続し順次全府内に拡張するようにと示達しました。

煉瓦積みの卵形管は美しく合理的で優れた機能を果たす

設計者は内務省御用掛の石黒五十二で、同省御雇工師だったオランダ人のヨハネス・デ・レーケに意見を聞き、「敷設地域は人口密集地で水はけが悪く、悪疫流行の危険性が高い神田区、雨水と汚水の合流排除、当時農家の有用肥料だった尿尿は流入させない、暗渠とし、本管は煉瓦積みの卵形渠、分管には円形陶管を採用する」などの設計案をまとめました。

卵形渠とは管の断面が卵を逆にした(とんがった部分が下方)形状で、水量が少なくても水深、流速を確保できるためゴミ等が堆積しにくいのが特徴です。直方体の煉瓦を積み上げて二重巻きにし、さらに上部以外の外周をコン

クリートで補強した堅牢な造りになっています。大きさは3種類あり、最大で縦径1363mm×横径909mmになります。

人々の期待を集めたものの、当初の府下全域への下水道整備計画は上水道優先の方針転換、財政難のためにあえなく頓挫します。18年度には政府補助金が3万円に減額され、地方費1万2,000円を加えて継続されますが、2年間で約4kmの管渠を敷設するにとどまりました。しかも、各戸から枝線・本管につなぐ地先下水工事は進まず、機能が十分に発揮されない状態が続きました。

このように当時は挫折したプロジェクトともいえる神田下水ですが、日本人が設計し市民のために造られた最初の近代下水道であり、その設計思想は明治40(1907)年に中島鋭治がまとめた東京の下水道整備のマスタープラン「東京下水道設計」に影響を与えました。まさに東京下水道の起点となったのです。

現在もなお、曲面の美しさ、緻密な施工は先人の技術力の高さを伝え、十全の機能を果たしている姿は感動的でもあります。目に触れる機会のない施設ではありますが、今後も適切な維持管理、補修により次世代に継承していきたい希少な土木遺産です。



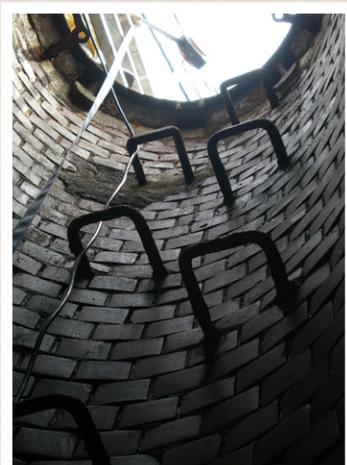
130年以上も経つとは信じられない本管内部。若々しさは現役ならではの画像提供:東京都下水道局



石黒五十二(1855~1922)
東京大学理学部(土木)工学科卒。
1879年から3年間、文部省よりイギリス留学を命じられ、水道・灌漑工事の実地研修を積む。83年帰国し、近代土木の創始期に活躍した
画像提供:土木学会附属土木図書館



地下を神田下水が走る多町大通り。前方に見えるのがJR神田駅



マンホール壁面も煉瓦積み。鉄製の足場が歴史を感じさせる
画像提供:東京都下水道局



多町大通りの歩道に設置された東京都指定史跡の案内板



森ヶ崎水再生センター(大田区)に展示されている実物大の神田下水モニュメント。東京下水道100年を記念して造られた

会員のひろば

このページは
会員の皆さまの
投稿によるページです

ビフォー



アフター



平成20年3月、太めの体型を以前に戻そうとスポーツジムに入りましたが、2年ほど経過してもあまり変化が見られませんでした。効果が現れないのはなぜか。インストラクターやジム友、インターネットなどから情報を得た結果、幾つかの誤りに気づきました。

まず、運動だけでは痩せられないこと。運動量を増やしても、食生活の改善なくして痩せることはできないのです。そこで朝食パンでは6枚切り2枚→1枚、ご飯なら中盛り→7分目、昼食は「ほっともっと弁当」から「野菜食」に変えました。夕食は元々主食抜きのツマミだけなので減らしようがありませんでした。

体の機能を知らずに取り組んでも無駄を積み重ねるだけ

体の中に入ってきた脂肪は、筋肉に燃やされ血液中に運ばれますが、運動していない筋肉は脂肪を燃やしてくれません。使われなかった脂肪は全て体脂肪として蓄えられます。

運動には脂肪を燃やす「有酸素運動」と筋肉を鍛える「無酸素運動」があり両者とも必要な運動です。

①有酸素運動は体脂肪を燃やす

継続的に比較的弱い力をかけ続ける有酸素運動は、エネルギー源として体内に蓄えられている体脂肪を燃焼させて使います。燃焼材料として酸素が必要で、20分以上続けることで皮下脂肪や内臓脂肪が使われるようになり、「ややきつい」と感じる中程度の運動において脂肪燃焼率が高まります。20

分まで使われるのは血中の脂肪。血液をサラサラな状態にするので健康維持のためなら十分な時間ですが、脂肪細胞を減らすには有効とはいえません。該当種目はウォーキング、ゆっくりした水泳など。ちなみに私の体脂肪率は、ここ数年は13～15%で推移しています。

②無酸素運動は基礎代謝量を増やす

瞬間的に強い力が必要なときは、筋肉に貯めておいたグリコーゲン(糖質)を主原料として使います。酸素を必要としないので短時間しか運動できませんが、筋肉を鍛えることができます。筋肉をつけると血液の流れ、酸素の供給などを向上させエネルギー消費が多くなり、基礎代謝量が増加します。寝ているときも脂肪を燃やしてくれるので、太りにくい体質になります。該当種目は筋力トレ、短距離走などです。

有酸素運動と無酸素運動 どちらから始めたら効果的?

筋肉量は落とさず脂肪量を落としたいときは「筋トレ→有酸素運動」の順番がおすすめです。筋トレを行うと成長ホルモンが大量に分泌され血糖値が上がり基礎代謝が高まり、有酸素運動を組み合わせることによって脂肪燃焼効率の促進につながります。成長ホルモンが十分に分泌された状態での有酸素運動は、脂肪燃焼を狙うときにとっても効果的なタイミングなのです。

数年前までは私も、有酸素運動を先行し、休憩を挟みながら楽にできる筋トレを後にしていましたが、ジム内で筋トレ先行が有効だと聞いてから変えてみました。取りかかり順序の変更と適正量減食を同時に行ったことから徐々に変化が見られ、インストラクターからも「うまく絞れましたね」との評価をいただきました。

私自身の平成18年と平成28年の体型を比較すると、体重69kg→60kg、ウエスト83cm→73cm。筋肉量が増加しての体重的な数値以上に絞られているのではないかと考えています。

何年経っても変身できない方がジムには多く見られます。健康的で引き締まった体を効率的に手に入れたい方は、ぜひ事前に学習してから臨んでみてください。

*インターネットやジムからの情報などにより確認したので間違いは少ないと思いますが、理解しにくいところ、誤っているところがあればご容赦ください。

before after

吉田雅文

川田建設株式会社
元 関東地方整備局道路部 地域道路調整官

新会員をご紹介します 新しく45名の方々が入会されました。これからよろしくお願いいたします。

氏名	現勤務先
堀口 智	(株) ホクエツ関東
浅古 勝久	(一財) 建設コンサルタンツ協会
石川 雄一	(一財) 全国建設研修センター
石山 博	関東建設マネジメント(株)
磯田 忠生	(株) 片柳建設
金子 孝男	関東建設マネジメント(株)
金子 勝	(一財) 日本建設情報総合センター
川崎 浩之	(一財) 国土技術研究センター
齋藤 守	(一社) 関東地域づくり協会
佐久間 博之	戸田建設(株)
佐藤 勇	砂防エンジニアリング(株)
白土 正美	ケミカルグラウト(株)
進藤 芳樹	(株) 新星コンサルタント
萩原 弘	(一財) 砂防フロンティア整備推進機構
二上 克次	大旺新洋(株)
山田 利一	関東建設マネジメント(株)
米山 実	関東建設マネジメント(株)
渡辺 勇雄	(株) 加賀田組
赤木 伸弘	電設コンサルタンツ(株)
長野 拓朗	共和コンクリート工業(株)
藤田 清二	関東建設マネジメント(株)
町田 忍	(株) 星光商会 神奈川支店
両角 和嘉	日本ロード・メンテナンス(株)

氏名	現勤務先
護摩堂 満	(一社) 日本道路建設業協会
大野 一幸	(株) 植木組
岡田 良夫	関東建設マネジメント(株)
加藤 晴大	馬淵建設(株)
五味田 文和	全国建設弘済協議会
近藤 誠一郎	関東建設マネジメント(株)
近藤 雅弘	関東建設マネジメント(株)
酒井 義尚	(一財) 国土技術研究センター
津久井 俊彦	(公財) 河川財団
堤 盛良	(一社) 関東地域づくり協会
徳嵩 公明	(一財) 道路新産業開発機構
利根川 誠	東京コンサルタンツ(株)
西尾 文宏	(株) バスコ
仁瓶 康弘	関東建設マネジメント(株)
野橋 明彦	(一社) 関東地域づくり協会
萩原 平次	関東建設マネジメント(株)
箕作 光一	(公財) 交通事故総合分析センター
八子 康幸	(一財) 日本建設情報総合センター
山本 洋司	関東建設マネジメント(株)
坂田 弘	自宅
高屋敷 光男	(公社) 全国土木コンクリートブロック協会
松井 建一	参議院議員 足立敏之事務所

お悔やみ申し上げます 12名の方々に心からご冥福をお祈り申し上げます。

氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
原 茂樹	平成 28 年 6 月	江戸川 出張所長
根本 銀次	平成 29 年 1 月	森林公園所長
酒井 史郎	平成 29 年 1 月	荒川上流 出張所長
青沼 利之	平成 29 年 2 月	渡良瀬 事務所長
池畑 輝男	平成 29 年 4 月	千葉国道 管理第二課長
山下 健一	平成 29 年 4 月	相武国道 建設専門官

氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
内山 茂樹	平成 29 年 5 月	茨城県 土木部長
三木 伸夫	平成 29 年 6 月	東北地建 環境審査官
勝又 慧	平成 29 年 6 月	横浜国道 出張所長
横山 嘉大	平成 29 年 6 月	関東地建 企画部 技術調整管理官
岩上 政夫	平成 29 年 7 月	関東地建 道路部 道路管理課長
神澤 繁	平成 29 年 7 月	常陸 出張所長

編集委員

● [関東地域づくり協会]

泉達也
神谷正一
澤田晋
堤盛良
仲川博雄
中村一夫
野橋明彦

[会員]

小林豊(株)大本組
田中良彰(大成建設(株))

地

球温暖化の影響が、局地的に降る雨の量が半端でない。1時間の降水量は50ミリメートルを超え80ミリメートル(気象庁の分類では猛烈な雨)が普通になりつつある。これに伴い、小河川の氾濫等による家屋浸水のニュースがあちらこちらで聞かれるようになり、他人事ではなくなってきた。

万が一に備えて事前準備が必要だ。水防(浸水対策)では「土のう」がよく使われるが、都市部では土のうに入れる土の入手が難しい。そこで「段ボール箱とゴミ袋による簡易水防」や「レジ袋とブロック(土の代替)」「レジャーシートとプランター(土の代替)」など、家庭にある身近な物を利用した「簡易的な浸水対策」が重要となる。自治体によってはホームページで紹介しているところもある。本格的な台風シーズンを迎え、各自、考えてみてはいかがだろうか。

(編集委員 H.N)

編集委員会だより

2017年7月

ここでしか味わえない 特産の食材で 地域を盛り上げる!

道の駅「つる」(山梨県都留市)は、山梨県内20番目の道の駅として平成28年11月5日に開業。平成28年1月27日に国土交通省重点「道の駅」に選定。都留市の情報を内外に発信する拠点として、農林産物の販売や、農産物を原料とする加工品の販売などに力を入れ、都留市を盛り上げる取り組みを行っている。

ピックアップ

第9回

関東の道の駅

道の駅「つる」



道の駅「つる」。間近を
リニア実験線が通る

富士の湧水で育った地域伝統野菜や精肉など 都留市の特産品をPRする場に

道の駅「つる」は中央道大月ICと都留ICのほぼ中央に位置します。敷地面積は10,575㎡。施設内には農林産物直売所や、地元食材を豊富に使ったメニューを提供するレストランが設けられ、緊急時には災害拠点となる芝生広場・運動広場など、子供たちが遊べるスペースもあります。都留市役所産業建設部の宮下洋一課長は、同施設の特徴についてこう話します。

「当施設は重点『道の駅』に選定され、富士の湧水を利用して栽培した水掛菜の販売普及を進めるなど、地元産物の振興に努めています。また自衛隊の災害派遣時の受入先、緊急炊き出し施設にもなっています。今後は、防災拠点としての機能強化を図っていく必要があると感じています」

地域住民や観光客の休憩所としての機能もあります。

「レストランでは地域伝統野菜の水掛菜を使ったメニューのほかに、富士の湧水で育った“富士湧水ポーク”のポークソテーや生姜焼きを提供しています。精肉やハム・ソーセージといった加工品の販売も行っています。富士湧水ポークは地元の人でもなかなか食べることができない貴重な食材なので、ぜひ召し上がっていただきたいです」と宮下課長は話します。

リニア中央新幹線とともに 都留市を盛り上げる観光拠点を目指す!

道の駅「つる」を語る上で外せないのが、隣接する山梨県立リニア見学センター。同センターはリニアモーターカー実験線の見学施設であり、道の駅内でもリニアが通過する様子を見ることができるモニターを備えています。「オープン時に体験乗車の記念企画を実施したところ、大勢の方にご応募いただきました。リニアの存在は大きいですね。今後もセンターと協力していろいろな企画を実現したいと考えています」(宮下課長)

市内にある3大学との連携にも力を入れています。都留文科大との連携では学生をはじめ、卒業生による産地間交流を展開。各地域の特産品や歴史、人物を紹介する「おすすめの逸品」でも、学生たちが活躍しました。

入場者数は、開業から平成29年3月末までで約27万人。東京からはもちろん、地元リピーターもたくさんいます。

堀内富久都留市長も同施設に対して大きな熱意を持ち「たくさんのお客さまに利用していただき、“市民に愛され”“地域に愛され”“訪れる人に愛される”。そんな道の駅になるように運営していきたい」と語っています。道の駅「つる」の未来に皆が期待を寄せています。

堀内富久都留市長



ここでしか食べられない
富士湧水ポーク。おす
すめはポークソテー

リニア実験線



木炭を利用して栽培した野菜が原料の「炭野菜ジェラート」や炭が混ざっている「炭ソフト」の人気の高い

「おすすめの逸品」。第1弾は静岡県の干物、第2弾は宮城県産の牡蠣を販売。6月に開催された第3弾では千葉県の鯨とピワなどの農産物を販売した



運動広場。「平日でも子供たちが遊びに来ます。地域の人が交流できる場所になればうれしい」と宮下洋一課長は期待を込める

